

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000413		
法人名	社会福祉法人北見有愛会		
事業所名	グループホームゆう&あいひまわり		
所在地	北見市花園町38番地6		
自己評価作成日	平成29年2月7日	評価結果市町村受理日	平成29年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL u.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=0175000413-00&Pr

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成29年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームゆう&あいひまわりでは、終末期を迎える方であっても、できる限りご本人とご家族の希望に沿った介護ができるよう努めております。
事業所として何ができるか、入居者の方ひとりひとりに何ができるかを常に考え、時にご家族も介護を行う一員として協力をお願いしながら、人間同士の繋がりを大切に毎日を築いております。
また、地域密着型施設としての存在意義を考え、専門的知識や技術を活かした社会貢献を行う事で、地域住民の方にも身近で開かれた施設と感じて頂くよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成13年開設され、利用者の言葉の中からでた「感謝」を理念としていましたが、管理者、職員が初心に帰り感謝を踏まえてさらに新たな気持ちから理念を構築し「向日」と定め、向日葵の様にまっすぐ、利用者に向き合う介護が出来るよう取り組んでいます。年度計画の中にある、基本に立ち返り、利用者一人ひとりの尊厳と、自己決定を尊重しながら、笑顔で自分らしく最後まで日常生活を営んでゆく事が出来るよう支援しています。また、開設当初から地域町内会とは良好な関係が出来ており、清掃活動や運営推進会議、法人全体の夏祭り、緊急時の協力体制を築いています。管理者は相互交流の思いから、地域に役立つようにと認知症サポーター講座を地域包括の協力で開催しオレンジリング活動を行う事で地域住民に貢献しています。これからは所属する町内会以外の近隣町内会へも呼びかけ活動を続ける予定としています。法人全体では多くの高齢者事業所があり全体での研修は充実していますが、その他にも外部研修や勉強会にも取り組み資質の向上を図っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を職員で話し合い、意見をまとめる事で作成し、共有、実践を行っている。	今迄の理念を職員全員で協議して見直し、全員で案を出し合い管理者によりまとめて新たな気持ちで取り組めるよう新しい理念を「向日」と作成し実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事の参加に加え、運営推進会議や消火訓練、法人主体のお祭りや、ひまわり主体の講習会を予定し、地域の一員としての交流を日々行っている。	開設当初より町内会とは良好な関係が出来ており、グループの夏祭りへの参加や運営推進会議への出席、緊急時の対応と協力をえています。また、地域への貢献として認知症サポーター養成講座に職員のみならず、家族、地域住民を対象にオレンジリングの取り組みを行い交流に役だてています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の質疑応答や講習会を予定するほか、近隣の方の施設見学や福祉施設への相談、質問等に随時答え、理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者及び職員の状況や行事活動内容、予定を報告し、助言を頂いている。災害時の協力体制も引き続き整えており、高齢者相談支援センターの助言を頂きながら、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、利用者家族、町内会役員、高齢者相談支援センター職員の出席を得て利用状況や活動報告を行い意見を得てサービス向上に努めています。議事録を玄関に備えて家族や職員の情報共有に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業運営について判断が困難な場合は、市担当者へ報告や相談を行っている。また入居相談等があれば、できるだけの協力を行っている。	市担当者とは待機利用者に対する情報交換や、困難者の入居依頼を受けたりして、相談や指導、助言、情報交換に努め適切な関係を構築しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束への研修を定期的に行い、理解を深めている。また職員間で話し合いを行い、共に確認し合う事で不適切ケア防止への意識を高めている。	身体拘束や虐待防止については、年2回の内部研修で身体拘束における弊害や指定基準における禁止対象となる具体的行為や虐待の延長線上にある不適切な言動、行動抑制について学び適切な介護が出来るよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する内部研修を実施しているほか、管理者は随時、他事業所と連携を取り、職員へ事例を報告する事で、職員への理解と防止意識向上へ取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修として権利擁護が必要とされる背景や権利侵害の例を挙げ、対応の必要性や問題点を学んでいる。その他、外部研修に参加し、得られた知識を職員間で共有できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去の際には契約書及び重要事項説明書に沿った説明を行い、ご理解を頂いた上で署名捺印して頂いている。制度改正等がある場合については事前にできるだけ直接説明を行い、理解して頂けるよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へ定期的な通信を発行している。また来所された際には、近況報告を行い、意見を伺う事で事業運営やサービスへの反映を行っている。必要時はその都度電話連絡を行い、相談や要望に対応できるよう心掛けている。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話や面会時、行事、運営推進会議にて把握して運営に活かせるよう取り組んでいます。日常の様子は年4回広報紙を発行し知らせており要望が有る時は職員全員で把握できるようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は法人の管理職会議や毎月の事業所会議の中で職員の意見や提案を反映できるよう心掛けている。また職員個々の施設への理想像や行事への提案を行う機会を設け、業務に活かしていけるよう努めている。	職員からの意見や提案は、事業所会議や法人研修等の勉強会で把握し提案を反映しています。職員から研修の希望や提案が有り今年度行う予定と成っています。また今年度から系列のグループホーム職員を対象とした研修に取り組む予定と成っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として給与や労働条件の見直し、健康診断、資格取得へのサポートを実施している。また管理者は職員の相談を受け、状況によっては一時的な休職や事業所間の異動も含めた職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の資格に応じた研修へ参加する機会を設けている。また管理者は、社会人として専門職としての自覚を持ち業務に携わるよう日頃から職員の指導を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流や研修、定期的な会議の中でコミュニケーションを図り、意見を交わし合う事でより良いサービスの向上に繋がるよう心掛けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に協力機関に情報提供を行って頂くと共に、ご本人やご家族と面談し聞き取りを行っている。入居後についても個人のペースに合わせたコミュニケーションを図り不安を感じる事がないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の施設見学や面談の際にご家族の要望を聞くなどして信頼関係の構築を行うほか、些細な事でも何か不安や不明な点があれば、連絡を頂くよう声を掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前よりご本人やご家族の希望を確認する機会を設け、入居後のサービス内容へ反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、お互いに助け合っていくという気持ちを持ちながら、入居者の方々と接し、自己決定を尊重している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時に近況や状況報告を行い、サービス提供内容もご本人やご家族へ相談し、決定している。また、趣味嗜好のものをお持ち頂くなどして、共に協力し合う関係である事をお話させて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類の方や友人の方が面会に来られ、ゆっくりと過ごして頂くほか、買物外出や冠婚葬祭、お盆、年末年始の外出などの支援や自宅への短期外泊のお手伝い等も行っている。	嘗ては馴染みの理美容店への訪問希望が有り送迎を行っていましたが近年は訪問美容を利用しています。知人の面会が有る時はおもてなしをして、関係継続が出来るよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症が軽度の方が重度の方のお手伝いや見守りをされる様子や新しく入居された方に、積極的に声をかける様子がみられる。コミュニケーションが困難な方についても、職員が間に入り楽しく穏やかに過ごして頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も「近くまで来たから」と立ち寄って頂いたり、農家のご家族の方が野菜を持ってきて頂く事もある。また、退去されたご家族に紹介をされたら施設見学や入居申し込みに来られる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からお話を伺う他にも、日常生活の会話の中や時々ゆっくりと話をする時間を設け、本人の意向や生活ベースを把握するよう努めている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、日常の会話で把握し外出や趣味の継続等本人の希望に沿った暮らしが出来るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供前より、ご本人の趣味嗜好を伺ったり、日常会話の中から聞いた話をご家族に確認し、生活歴を把握するなどしてプランや生活に取り入れるなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身の状況を把握し、職員間で共有する様努めている。些細な変化であっても記録や報告を行う事により、その都度話し合いを行いケアに活かせるよう取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングとアセスメントを職員間で話し合い行っている。ご本人やご家族の希望をもとにプランを作成し、状況の変化に合わせて変更を行っている。	介護計画は基本的には3ヶ月毎に、利用者、家族の要望を反映して、毎月のカンファレンス、モニタリング、課題分析を行いながら現状に即した介護計画サービス提供が出来るよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランによる支援内容以外についても、表情や言動等をありのまま記録している。気づいた点や本人の希望が聞かれた際などは、職員間で情報を共有し申し送りを行っており、それをもとにプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中であっても、本人の状態を確認しご家族へ連絡を行う事や、洗濯物の入れ替え、消耗品を届けるなどしている。また、必要書類の代行手続き等もご家族の希望があれば、出来るだけ支援するよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護や市の福祉サービスを活用し住み慣れた地域での生活ができるよう支援している。医療機関についても慣れ親しんだ場所を利用して頂くなど、安心した生活を送れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望する医療機関への受診に努めている。また受診時は職員が同行し、主治医へ状況報告を行う事により信頼関係の構築に努めている。受診結果は面会時や電話で報告を行い、ご家族も不安なく過ごせるよう努めている。	利用者それぞれのかかりつけ医への受診は事業所が対応しています。往診や週1回の看護職員により健康管理がなされ利用者、職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、毎週金曜日に看護職員による健康状態の確認と把握を行っている。また、心身の状況に合わせ、外部訪問看護の契約も個別に可能であり、精神的な支援や終末期の対応もできる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には職員が同行し、医療機関への情報提供を行っている。また、入院中についても定期的な面会をし、本人の状況を確認するほか、カンファレンスに参加させて頂くなどして情報交換や共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期についての説明を看取り指針をもとに行っている。また終末期にかかる前の段階で、ご本人やご家族の希望を確認し、状況によっては、かかりつけ医の変更を行うなどして、できるだけ希望に沿った対応ができるよう努めている。	契約時に利用者や家族の思いを聞き重度化や終末期について説明し同意を得ています。利用者のかかりつけ医との関わりを深めていき看取りができる方向へ話し合っています。十分な信頼関係を出来る限り構築し可能な限り住み慣れた場所で後悔のないよう職員が寄り添ったケアを行える環境づくりを大切にしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、内部研修を行う他にも、救急救命講習会を行い、初期対応の仕方を学ぶなどして緊急時に対応できるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの一部改訂を行っている。また内部研修や町内会の方も参加を行う避難訓練を行い、地域との協力体制や関係構築に心掛けている。	消防署立会いのもと年2回、昼夜想定で避難訓練を実施しています。毛布などを使った避難、避難後の避難場所までの避難経路などの対策を構築しています。	災害計画に基づく現実的な避難訓練の実施に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、自己決定ができるよう声掛けやケアに配慮している。また、管理者は職員には客観的視点から自らを見つめ入居者の対応にあたるよう日頃から指導している。	利用者一人ひとりの意志や人格を尊重し、自尊心や利用者への思いやり、恥ずかしく感じさせない支援に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中でさりげない意志決定の場面を作るよう心掛けたり、意志を上手に表現できない入居者の方についても表情や行動、様子を観察し、職員間で共有する事でできるだけ汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活習慣を把握し、集団的ケアとならないよう心掛けている。また、自発的に行動できない方についても、居室でゆっくりと会話する時間を設けるなどし、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選びや化粧等も本人の希望に合わせて行っている。また、手直しが必要な方についても、気分を害さぬような声掛けや支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの誕生日には、事前に希望を伺い、好みのものを提供したり、食事の準備や後片付けについても、できる範囲でお願いし、職員と共に行っている。	食事は系列の事業所で栄養バランスを考慮し調理しています。主食と汁物は利用者に合わせ職員が行っています。外食のお寿司や誕生日には好きな物を聞き食卓に反映しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録し、職員間で申し送るほか、食事時の状況や嚥下状態についても同様に記録している。食事や水分摂取の低下がみられる方については、ご家族と相談の上、好みの物を提供したり、主治医へ相談するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアや義歯の洗浄を促し、行っている。また状況に合わせ、歯科受診や往診を行い、嚥下状態の低下を防ぐよう努めている。また、外部研修等に参加する機会を設け、会議で報告をする事により職員間での情報の共有に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンや記録を行っている。また、心身の状況に合わせ、ポータブルトイレの設置や尿取りパットの種類の変更をしている。立位が困難な方についても希望時や排便時に2人介助を行うなどして、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレで自立排泄できるよう支援しています。オムツ講習では利用者に合うサイズの選び方のポイント、時間帯や排尿量に合わせ工夫する事で汚染や尿漏れが防止でき、身体状況によりどれを使用すると漏れが少ないかで利用者に不快を感じさせない取り組みを学んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量の把握や排便間隔の記録を行っている。また状況に合わせ腹部マッサージや乳製品を摂るなどし便秘緩和に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	予め入浴日を決めてはいるが、本人の気分や体調に合わせ日時の変更をしている。また、衣類選びや声掛けから気分を害さぬよう配慮し、楽しんで入浴して頂けるよう心掛けている。	週2回を基本に入浴しています。希望によっては毎日入浴できる体制が出来ています。利用者の状態や希望に合わせて楽しみとなるよう取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、心身の状況を確認しながら、日中の活動支援を行うと共に、体調や不安感等に配慮し、職員の見守りの中、休息や安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関受診後の記録や処方箋の内容を職員全員で確認し、用法、用量、副作用についての把握をしている。また誤薬に繋がらないよう、確認や記録を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段のコミュニケーション、ご家族のお話から、本人のやりたい事や好む事を把握している。必要な物を準備したり、一緒に楽しみながら行うよう支援に努め、多方向からのアプローチを行い、観察する事で、新たな楽しみを見出し、気分転換等を図れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況により気軽に外出できる方は限られているが、できる限りご家族へ協力して頂きながら、買い物や外食、一時帰宅などの支援を行っている。	利用者の希望や状態、状況に合わせて、日常的な散歩や植栽、収穫などを行っています。法人の夏祭りや町内会の花見＆焼肉に家族と参加したり、近郊の店へ買い物や外食に出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ほぼ全ての方のお小遣いはお預かりしているが、少額程度は本人が管理されている方もいるため、医療機関受診後や外出レクの時などに自ら好きな物を選び買い物するなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも本人の希望に合わせて電話での連絡をする事が可能であり、手紙のやり取りも郵便局が近隣にあり対応可能である。またハガキや封筒等の準備のお手伝いや記入の手助けを職員が必要に応じて行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間や廊下に季節に応じた装飾品を入居者の方と共に飾りつけたりしている。飾り付けを行う時は声を掛け合ったり、確認したり行いながら、不快にならないよう配慮している。	共用空間には利用者と職員が作った季節に合わせたちぎり絵や行事の写真が飾られています。楽しく食事をしたりコミュニケーションの場であり、自分の時間を自由に過ごせるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や心身の状況に合わせ、食事やおやつを運膳したり、無理強いする事なく居室や居間で過ごして頂けるよう声掛けや支援を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り馴染みの物を持ち込んで頂くようご家族へ伝えている。また個々の状況に合わせて、希望を確認しながら配置を行うなどして落ち着いて生活できるよう努めている。	居室には利用者が使い慣れた生活用品が持ち込まれ、自分の能力を活かし自分らしく楽しく暮らすことが出来るよう取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの前に案内板を掲示したり、廊下や食堂などに移動の妨げにならないよう努めている。また、居間での座る位置は、自立移動を行える方の生活導線に配慮した配置を心掛けている。		